

# 春來にけらし

(昭和十七年寮歌)

橋爪秀雄君 作歌  
李子一男君 作曲

## 一

春來にけらし白雪の  
厚き衣や重からん  
綾羅の糸も綻ろびて  
朧々深き五月闇  
榆影揺めく鼙鼓の音に  
夜霧に蒸せる緑酒汲み  
挙りて踊る榆の精

## 二

草茅しげき原始林かげに  
聖き焰を囲みつつ  
若き情熱は求むれど  
人生誰かよく解かん  
ただ真なる愛に泣く  
寮友の姿の清ければ  
春宵の罪と誰か言ふ

## 三

春秋糸も限りなく  
文月の夢は織女星の  
あはれ手榴の衣かな  
山の端深くたそがれて  
今宵銀河の祭日の  
永劫の空を眺むれば  
天空流る星一つ

## 四

雨月の濁流滔々と  
豊川に聞く世の憂  
泥濘沈み真清水の  
流るる秋は見ざるとも  
墳墓の土を清くせん  
戦の庭を高らかに  
七つの海の潮音よ